「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」の一部変更新旧対照表

(下線部は変更部分)

米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（令和2年3月）（案）	米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（令和元年11月）
<p>第1 (略)</p> <p>第2 米穀の需給の見通しに関する事項 1・2 (略)</p> <p>3 令和元／2年及び令和2／3年の需給見通し (1) 令和元／2年の需給見通し 令和元／2年の需給見通しは、表3のとおりです。</p> <p>① 供給量 ア (略) イ 令和元年産主食用米等の生産量は、<u>726万トン</u>（<u>令和元年産水稻の収穫量</u>（主食用））です。 ウ この結果、令和元／2年の主食用米等の供給量の合計の見通しは、<u>915万トン</u>となります。</p> <p>② (略)</p> <p>③ 令和2年6月末の民間在庫量 令和2年6月末の民間在庫量は、①の供給量及び②の需要量から算出して<u>187万トン</u>と見通されます。</p> <p>(2) 令和2／3年の需給見通し 令和2／3年の需給見通しは、表3のとおりです。</p> <p>① 供給量 ア 令和2年6月末の民間在庫量は、(1)の③により<u>187万トン</u>と見通されます。 イ 令和2年産における主食用米等生産量の見通しは、令和3年6月末民間在庫量が安定供給を確保できる水準（180万トン）となる<u>709万トン</u>から主食用米等の需要量の見通しと同水準の717万トンまでと<u>8万トン</u>の幅をもって設定します。</p>	<p>第1 (略)</p> <p>第2 米穀の需給の見通しに関する事項 1・2 (略)</p> <p>3 令和元／2年及び令和2／3年の需給見通し (1) 令和元／2年の需給見通し 令和元／2年の需給見通しは、表3のとおりです。</p> <p>① 供給量 ア (略) イ 令和元年産主食用米等の生産量は、<u>727万トン</u>（<u>令和元年10月15日現在の令和元年産米水稻の予想収穫量</u>（主食用））です。 ウ この結果、令和元／2年の主食用米等の供給量の合計の見通しは、<u>916万トン</u>となります。</p> <p>② (略)</p> <p>③ 令和2年6月末の民間在庫量 令和2年6月末の民間在庫量は、①の供給量及び②の需要量から算出して<u>189万トン</u>と見通されます。</p> <p>(2) 令和2／3年の需給見通し 令和2／3年の需給見通しは、表3のとおりです。</p> <p>① 供給量 ア 令和2年6月末の民間在庫量は、(1)の③により<u>189万トン</u>と見通されます。 イ 令和2年産における主食用米等生産量の見通しは、令和3年6月末民間在庫量が安定供給を確保できる水準（180万トン）となる<u>708万トン</u>から主食用米等の需要量の見通しと同水準の717万トンまでと<u>9万トン</u>の幅をもって設定します。</p>

ウ この結果、令和2／3年の主食用米等の供給量の合計の見通しは、897万トンから904万トンまでとなります。

② (略)

③ 令和3年6月末の民間在庫量

令和3年6月末の民間在庫量は、①の供給量及び②の需要量から算出して180万トンから187万トンまでと見通されます。

表3 令和元／2年及び令和2／3年の主食用米等の需給見通し

(単位：万トン)

令和元／2年	令和元年6月末民間在庫量	A	189
	令和元年産主食用米等生産量	B	<u>726</u>
	令和元／2年主食用米等供給量計 C = A + B		<u>915</u>
	令和元／2年主食用米等需要量	D	727
	令和2年6月末民間在庫量 E = C - D		<u>187</u>
令和2／3年	令和2年6月末民間在庫量	E	<u>187</u>
	令和2年産主食用米等生産量	F	<u>709</u> ～717
	令和2／3年主食用米等供給量計 G = E + F		897～ <u>904</u>
	令和2／3年主食用米等需要量	H	717
	令和3年6月末民間在庫量 I = G - H		180～ <u>187</u>

注1：「主食用米等」の中には、主食用に供給されるもののほか、加工用途及び輸出用に供給されているものの一部が含まれている。

注2：令和元年産米については、高温等の影響により産地品種銘柄によっては精米歩留りが例年よりも低下している状況にあること等から、実際に主食用米等として流通する数量は減少する可能性がある。

注3：令和2年6月末民間在庫量については、収穫後の主食用米等が保管されている倉庫等において、台風による水濡れ等の被害があった主食用米等の数量を除いている。

ウ この結果、令和2／3年の主食用米等の供給量の合計の見通しは、897万トンから906万トンまでとなります。

② (略)

③ 令和3年6月末の民間在庫量

令和3年6月末の民間在庫量は、①の供給量及び②の需要量から算出して180万トンから189万トンまでと見通されます。

表3 令和元／2年及び令和2／3年の主食用米等の需給見通し

(単位：万トン)

令和元／2年	令和元年6月末民間在庫量	A	189
	令和元年産主食用米等生産量	B	<u>727</u>
	令和元／2年主食用米等供給量計 C = A + B		<u>916</u>
	令和元／2年主食用米等需要量	D	727
	令和2年6月末民間在庫量 E = C - D		<u>189</u>
令和2／3年	令和2年6月末民間在庫量	E	<u>189</u>
	令和2年産主食用米等生産量	F	<u>708</u> ～717
	令和2／3年主食用米等供給量計 G = E + F		897～ <u>906</u>
	令和2／3年主食用米等需要量	H	717
	令和3年6月末民間在庫量 I = G - H		180～ <u>189</u>

注1：「主食用米等」の中には、主食用に供給されるもののほか、加工用途及び輸出用に供給されているものの一部が含まれている。

注2：令和元年産米については、高温等の影響により産地品種銘柄によっては精米歩留りが例年よりも低下している状況にあること等から、実際に主食用米等として流通する数量は減少する可能性がある。

注4：上記の需給見通しのほか、第4のSBS方式による輸入予定数量を最大とした数量が主食用米等として流通する見通し。

注5：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

第3 (略)

第4 米穀の輸入数量及びその種類別の数量に関する事項

我が国は、平成7年度からガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意に基づくミニマム・アクセス米の輸入を実施しており、この輸入は、「ガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意の実施に伴う農業施策に関する基本方針」（平成5年12月17日閣議了解）の趣旨を踏まえつつ行うこととしています。また、これに加えて、平成30年度からCPTPP協定に基づく輸入を実施しています。いずれの輸入に当たっても、輸出国の輸出余力、国際相場等を勘案しながら適切に行うこととしています。

1 令和元会計年度の輸入状況

令和元会計年度においては、平成31年3月の基本指針に基づき、ガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意に基づく77万玄米トン（うちSBS（売買同時契約）方式による輸入10万トン）及びCPTPP協定に基づく6千トン（SBS方式により運用する豪州に対する国別枠）の輸入を実施すべく、順次買い付けを行いました。その結果、ガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意に基づく輸入について全量（SBS方式による輸入は、うち8万トン）を買い付けるとともに、CPTPP協定に基づく輸入については3千トンを買い付けました。

2 令和2会計年度の輸入方針

令和2会計年度の輸入予定数量は、ガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意に基づく輸入については、WTO農業交渉において新たな合意ができるまではミニマム・アクセス数量は平成12年度の水準が維持されることから、年間77万玄米トンとし、そのうちSBS方式による輸入については、予定数量を年間10万トンとします。また、CPTPP協定に基づく輸入については、SBS方式により運用する豪州に対する国別枠として、予定数量を年間6千トンとします。

注3：上記の需給見通しのほか、第4の2のSBS方式による輸入予定数量を最大とした数量が主食用米等として流通する見通し。

第3 (略)

第4 米穀の輸入数量及びその種類別の数量に関する事項

我が国は、平成7年度からガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意に基づくミニマム・アクセス米の輸入を実施しており、この輸入は、「ガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意の実施に伴う農業施策に関する基本方針」（平成5年12月17日閣議了解）の趣旨を踏まえつつ行うこととしています。また、これに加えて、平成30年度からCPTPP協定に基づく輸入を実施しています。いずれの輸入に当たっても、輸出国の輸出余力、国際相場等を勘案しながら適切に行うこととしています。

1 平成30会計年度の輸入状況

平成30会計年度においては、平成30年3月及び平成30年11月の基本指針に基づき、ガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意に基づく77万玄米トン（うちSBS（売買同時契約）方式による輸入10万トン）及びCPTPP協定に基づく2千トン（SBS方式により運用する豪州に対する国別枠）の輸入を実施すべく、順次買い付けを行いました。その結果、ガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意に基づく輸入について全量（SBS方式による輸入は、うち6万トン）を買い付けるとともに、CPTPP協定に基づく輸入については1千トンを買い付けました。

2 令和元会計年度の輸入方針

令和元会計年度の輸入予定数量は、ガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意に基づく輸入については、WTO農業交渉において新たな合意ができるまではミニマム・アクセス数量は平成12年度の水準が維持されることから、年間77万玄米トンとし、そのうちSBS方式による輸入については、予定数量を年間10万トンとします。また、CPTPP協定に基づく輸入については、SBS方式により運用する豪州に対する国別枠として、予定数量を年間6千トンとします。